

11月29日(金)に第三回家庭教育学級が開催されました。今日は「これっていじめ?~いじめがはじまる
とき~」をテーマにNPO法人「ストップいじめナビ」副代表 須永祐慈様にご講演いただきました。

たくさんのお話をいただいた中から、ごく一部ですがご紹介いたします。

《子どものきもち(一例から)》

- ・「ちょっとした」いたずらのくりかえし ・「ちょっかいする人」一人から二人、三人・・・
- ・先生から騒いだとして「怒られる」 ・「おはよう」の返事がなくなる
- ・みんな無視してくる「かげぐち」
- ・クラスみんなから「浮いている」「一人ぼっち」
- 孤独になる・がまん・耐える・エネルギー消費・・・

その時の気持ち

- ・ぼーっとする ・苦しい ・つらい
- ・わからない ・どうしようもない ・突然涙がでる
- ・ガマンしなくちゃ ・学校にいけない など

《先生に言われて孤独を深めること》

- ・お前が弱いのでは・強くなれ
- ・お前が反論しないからでは?
- ・やられる理由があるんじゃないか
- ・がんばりなさい・しっかりしろ
- ・とりあえず、逃げろ

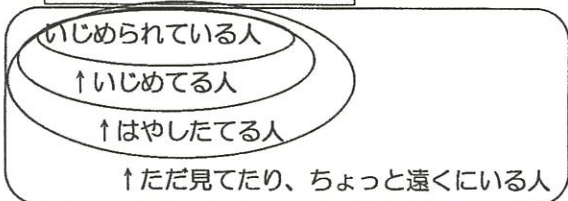


すでに一生懸命がんばっている・・・

「不安や孤独」に気づいてほしい

《そもそも「いじめ」とは》 心身の苦痛を感じたら「いじめ」

4層構造からできること



いじめをみたら・・・

- ・通報者 →大人に通報する
- ・シェルター →受け止め役になる
- ・スイシチャー →話題をそらして流さない
- ・記録 →記録する、残す

・小学校は1学期にいじめが多く、男子の場合は1学期、女子の場合は2学期がピーク。

《どんないじめか》

- ・小学校は、人間関係が浅いため、軽くぶったり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりすることが多い。
- ・中学校は、人間関係ができているためグループができてくる。

そのため、仲間はすれにされたり、無視されたり、陰で悪口を言われたりすることが多い。

・その他にも、からかわれたり、悪口やおどし文句、嫌なことを言われたりなどが多い。

《いじめは「環境」によって「育てられる」》

〈クラスの環境がいじめの頻度と関係する〉

- ・いじめ頻度が高いといじめが深刻化
- ・体罰が多いといじめが「多くなる」
- ・指導が厳しいといじめが「増加」
- ・連帯責任のクラスはいじめが「増加」

不機嫌な教室・環境から



「ごきげんな教室・環境へ」

⇒ 先生が話をよく聞くといじめが少ない

できることは?

- ・子どもたちの「気持ちの受けとめ役」「シェルター役」「つながれる」存在。
- ・小さなうちから「情報の共有」を。 ・担任が抱え込まないような関係づくり。
- ・早めに「第三者」の相談先とつながる。 ・日頃から子どもの「生活環境」を考える。